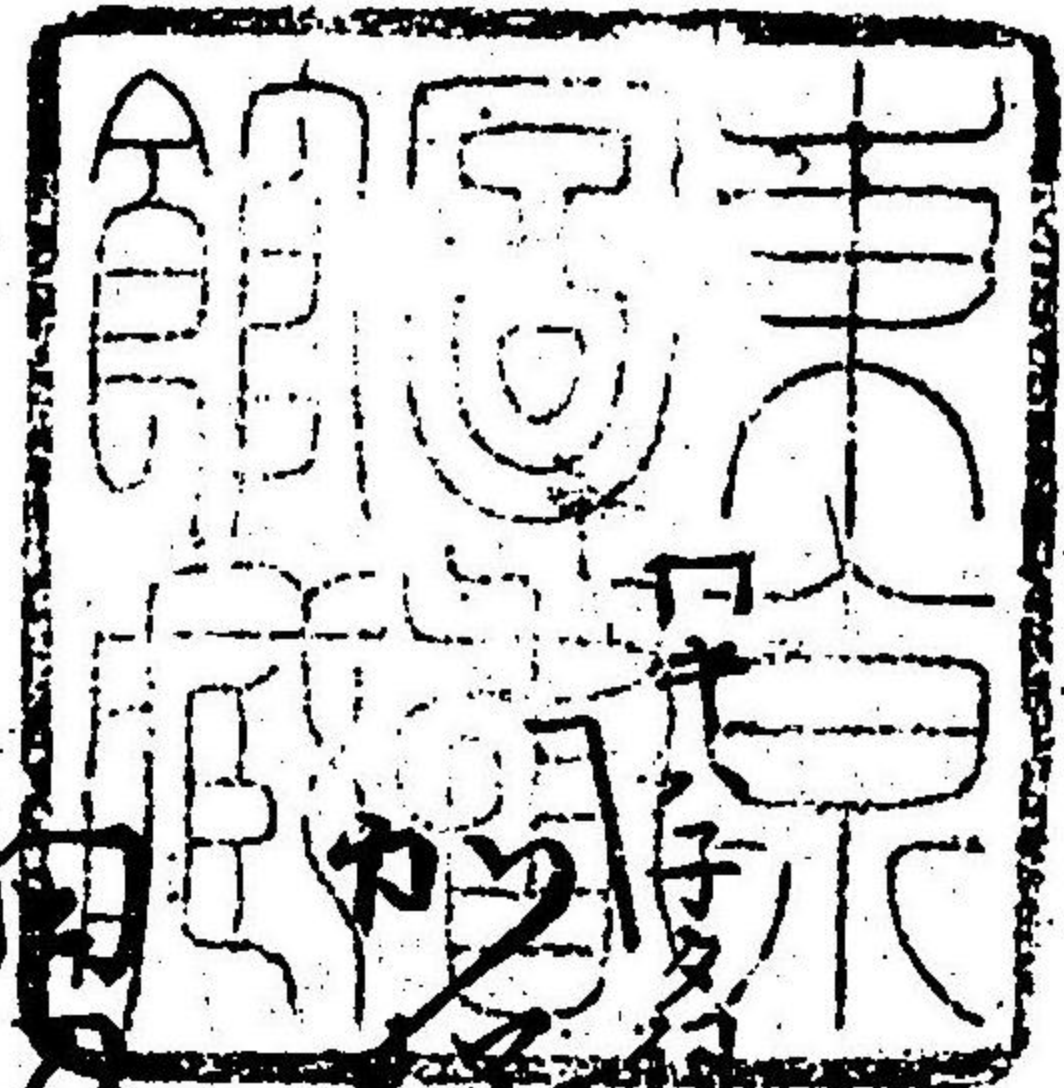


特42

459

笛之卷

63



笛乃卷

申す小者之義胡れ申す有しと
申す十郎秋長少く候。備も義胡の

少子常盤入申腹小ハ三男。牛若殿と

申して申座とて。学問の爲小鞍馬のち人

書を申座の所小。学問と志存とて。夜

く。又条に橋の出。教多し人を申切候

と下ろり序の奇しく極る人々
復の者皆世に出る其の年々其の教訓
トセカニ母と申せざる事也秋も来り
了秋ニ母長し申す事入来り人供是等
ハ行れ為し来る事程也唯ニ母今来る夏
節乃美小部ハ新言たる事也其年長殿
夜もく西条ハ極る世有る人其の人多

此切候と下ろりあつて人其の極る事
も之を此方申す事也其教訓も
も存候 備申書殿ハ其の極る事也
其も亦申候 此方申入人 是
ても此方申入人 其も亦申入人
其も亦申入人 其も亦申入人
ハ其も亦申入人 其も亦申入人

見あはれをいふ様ふあつてん^一あつてん
 かくつてんあつてん思ふあつてんあつてん
 言よ今福平家ハ公博の肩あつてん
 一あつてん同^一あつてんあつてんあつてん
 きの勝あつてん他あつてんあつてんあつてん
 母もあつてんあつてんあつてんあつてん
 せつあつてんあつてんあつてんあつてん

失ふよ^一あつてんあつてんあつてんあつてん
 あつてんあつてんあつてんあつてんあつてん
 母あつてんあつてんあつてんあつてんあつてん
 其あつてんあつてんあつてんあつてんあつてん
 あつてんあつてんあつてんあつてんあつてん
 親子あつてんあつてんあつてんあつてんあつてん
 けあつてんあつてんあつてんあつてんあつてん

ちるるん。又々々を飛翔る者も。其理りを
 知れり。又々々。三枝の礼を。鳥（鳥）
 く。乃孝行あるハ。いふ年。あや。口男は
 不孝あるも。志くれハ。年暮も。年を合を立
 よる。や。ゆ。の。人。と。信。居。り。ウ。ヤ。オ。こ。こ。お。お。
 いと。き。ふ。り。り。時。り。り。も。父。子。離。て。む。
 人。ゆ。か。歌。し。手。也。も。渡。り。あ。る。ハ。成。剛。

川の瀬も。沈るりや。と。心。不。忍。て
 思。目。杯。乃。差。れ。一。時。花。の。夕。影。乃。山。下。風
 夢。ま。く。泣。的。き。六。波。羅。け。人。中。り。支。流
 そ。の。を。悲。し。も。と。恐。ろ。と。落。し。も。今。思。ひ
 出。れ。渡。り。わ。母。乃。信。の。ま。た。わ。明。る。さ。寺。へ
 登。り。く。芳。ま。か。り。此。笛。ふ。と。ま。り。便。り。お。ま。り
 成。謂。は。き。実。理。り。ハ。不。審。哉。是。を。法

大師とて、老翁人の出番を傳へる故に是

るが如く、我れもいふべきや。抑もや大師乃

も事ハ久しに及んで、其の如く傳へるべき

いふ人ノキ。是も元入唐の唐人の如く、笛を

教へ其世の有りて、備へてし行る

所ノキ。我れも文字の如く、其の如く

是の如く、今此人も隠へて其を

半一
一ノキ

見も明石の如く、其の如く、其の如く

其の如く、其の如く、其の如く、其の如く

大師の如く、其の如く、其の如く、其の如く

若う其の如く、其の如く、其の如く、其の如く

其の如く、其の如く、其の如く、其の如く

其の如く、其の如く、其の如く、其の如く

其の如く、其の如く、其の如く、其の如く

其の如く、其の如く、其の如く、其の如く

